

皮膚科プログラム

一般目標(オリエンテーション)

皮膚の病態の把握を正確に行い診断や検査、治療にあたっていく。

行動目標

B-1医学・医療における倫理性 診察時など、患者さんを尊厳ある個人として接する

B-2医学知識と問題対応能力 皮疹から疾患などを考え、次への検査など進めていく

B-3診療技能と患者ケア 皮膚に対する検査・処置などを適切に行っていく

B-4コミュニケーション能力 患者さんの訴えなどを、カルテなどに記載できる

B-5チーム医療の実践 看護師などコメディカルと行動できる

B-6医療の質と安全の管理 副作用、危険性などを考えて行動できる

B-7社会における医療の実践 日常生活などでの注意点など説明できる

B-8科学的探究 疾患の治療・機序などを考えていく

B-9生涯に渡って共に学ぶ姿勢 新しい疾患、治療など学び続けていく

研修の方略(LS)

週間スケジュール	月	火	水	木	金
時間					
8時40分～13時00分	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療
午後	手術	病棟	病棟	手術	手術

病棟業務
入院患者の診察・処置

手術
上級医とともに行う。

カンファレンス

特記事項無し

その他 緊急時対応・学術活動等

特記事項無し

経験可能な症候(経験すべき症候29症例中15症候)		
1	ショック	
2	体重減少・るい瘦	○
3	発疹	○
4	黄疸	
5	発熱	○
6	ものの忘れ	
7	頭痛	○
8	めまい	
9	意識障害・失神	
10	けいれん発作	
11	視力障害	○
12	胸痛	○
13	心停止	
14	呼吸困難	
15	吐血・喀血	
16	下血・血便	
17	嘔気・嘔吐	○
18	腹痛	○
19	便通異常(下痢・便秘)	○
20	熱傷・外傷	○
21	腰・背部痛	○
22	関節痛	○
23	運動麻痺・筋力低下	○
24	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	○
25	興奮・せん妄	○
26	抑うつ	
27	成長・発達障害	
28	妊娠・出産	
29	終末期の症候	
経験可能な疾病・病態(経験すべき疾病・病態26疾病・病態中4疾病・病態)		
1	脳血管障害	
2	認知症	○
3	急性冠症候群	
4	心不全	
5	大動脈瘤	
6	高血圧	
7	肺癌	
8	肺炎	
9	急性上気道炎	
10	気管支喘息	
11	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	
12	急性胃腸炎	
13	胃癌	
14	消化性潰瘍	
15	肝炎・肝硬変	
16	胆石症	
17	大腸癌	
18	腎盂腎炎	
19	尿路結石	
20	腎不全	○
21	高エネルギー外傷・骨折	○
22	糖尿病	○
23	脂質異常症	
24	うつ病	
25	統合失調症	
26	依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)	

経験可能な臨床手技	研修医1年次			研修医2年次		
	単独可能	単独不可		単独可能	単独不可	
		事前確認	指導医立会		事前確認	指導医立会
体位変換						
移送						
皮膚消毒	○			○		
外用薬の貼布・塗布	○			○		
気道内吸引・ネブライザー						
静脈採血						
胃管の挿入と抜去						
尿道カテーテルの挿入と抜去						
注射(皮内、皮下、筋肉、静脈内)						
中心静脈カテーテルの挿入)						
動脈血採血・動脈血)						
腰椎穿刺						
ドレーンの挿入・抜去						
全身麻酔・局所麻酔・輸血						
眼球に直接触れる治療						
①気道確保						
②人口呼吸(バッグ・バルブ・マスクによる徒手換気含)						
③胸骨圧迫						
④圧迫止血法						
⑤包帯法						
⑥採血法(静脈血、動脈血)						
⑦注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)						
⑧腰痛穿刺						
⑨穿刺法(胸腔、腹腔)						
⑩導尿法						
⑪ドレーン・チューブ類の管理						
⑫胃管の挿入と管理						
⑬局所麻酔法		○		○		
⑭創部消毒とガーゼ交換		○		○		
⑮簡単な切開・排膿		○		○		
⑯皮膚縫合		○		○		
⑰軽度の外傷・熱傷の処置		○		○		
⑱気管挿管						
⑲除細動等						
血液型判定・交差適合試験						
動脈血ガス分析(動脈採血を含む)						
心電図の記録						
超音波検査						
評価(Ev)						

研修医評価票を用いて、下記のとおり評価する。
A.医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)について、到達目標における医師としての基本的価値観4項目を評価する。
B.資質・能力について、研修修了時に習得すべき包括的な資質・能力9項目について評価する。
C.基本的診療業務について、研修修了時に身に付けておくべき4つの診療場面(一般外来診療、病棟診療、初期救急対応、地域医療)における診療能力について評価する。